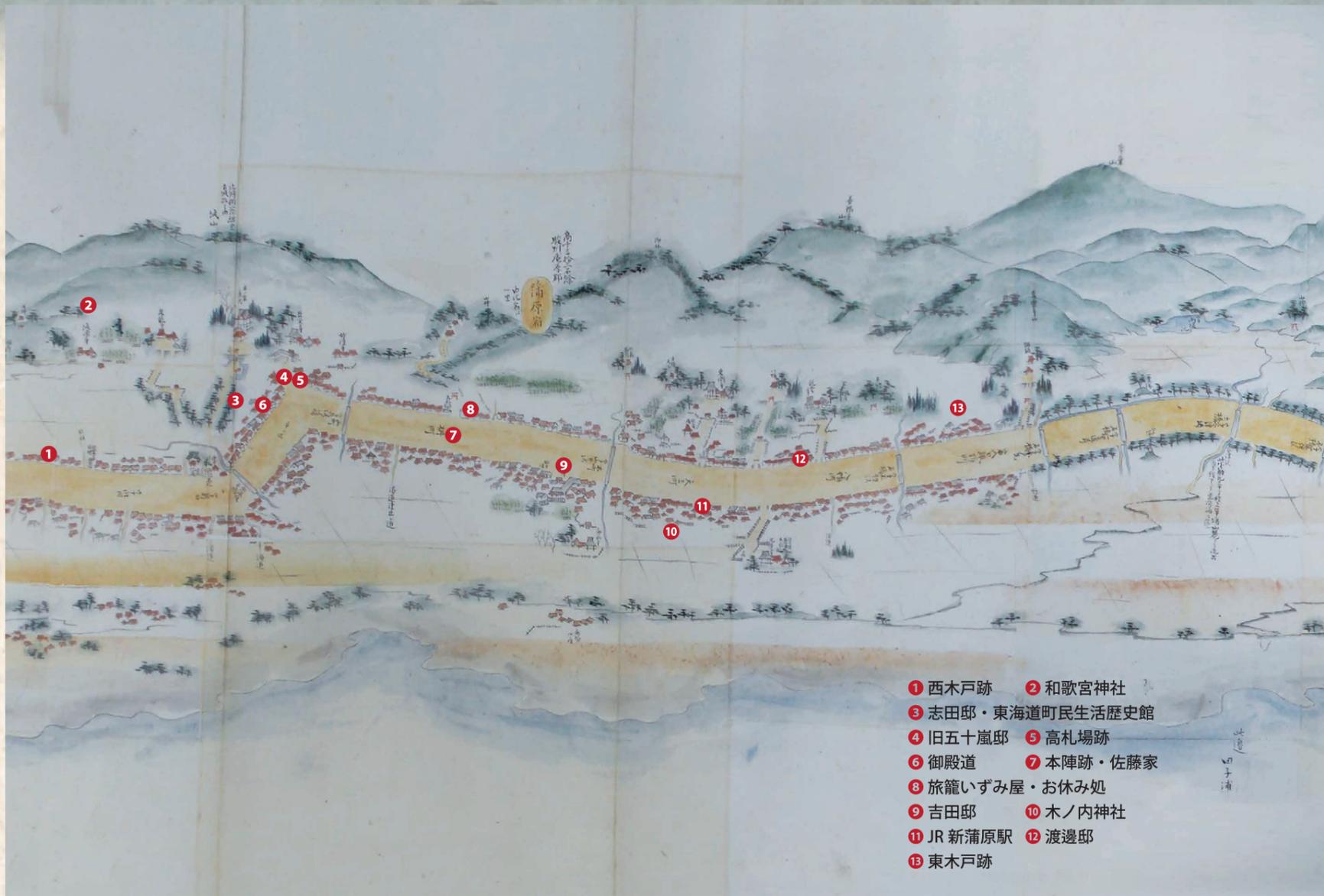


東海道蒲原宿



- ① 西木戸跡 ② 和歌宮神社
- ③ 志田邸・東海道町民生活歴史館
- ④ 旧五十嵐邸 ⑤ 高札場跡
- ⑥ 御殿道 ⑦ 本陣跡・佐藤家
- ⑧ 旅籠いずみ屋・お休み処
- ⑨ 吉田邸 ⑩ 木ノ内神社
- ⑪ JR 新蒲原駅 ⑫ 渡邊邸
- ⑬ 東木戸跡

「歌川広重が亀山宿と共に雪景色を描いた宿場町」

蒲原は律令時代の延喜式に駅として記載された、歴史ある街で、海岸一带は田子の浦と呼ばれ続け、幕府地図にも記載されました。山部赤人が冠雪の富士を詠んだのは蒲原・吹上浜といわれ、寛永11年(1634)に再建された和歌宮神社の祭神は山部赤人になっています。また奥州藤原氏の元へ向かう義経が神原氏に匿われた地でもあり、義経を慕ってきた岡崎の浄瑠璃姫との悲恋は、その後浄瑠璃姫二段草紙で紹介されました。浄瑠璃姫の墓も現存し、光蓮寺や木ノ内神社が詳しく伝えます。

天保14年(1843)の蒲原宿は戸数509、人口2480人、本陣1、脇本陣3、旅籠42で、街道の継立て業務の他、甲州年貢を江戸へ届ける海運業務の中継基地でもあり、活気に満ちていました。現在、7件の国登録有形文化財の他、土蔵等も多く残り、「間の宿・岩淵～蒲原宿～由比宿」が平成8年に国から県下唯一の歴史国道に選定されました。岩淵には一里塚や小休本陣が現存し、由比には本陣公園や広重美術館があり、何れも蒲原宿から1里圏であることから、一体で江戸時代を伝えています。更に西に向かうと薩埵峠東麓に幕臣・山岡鉄舟を匿った茶屋・望嶽亭・藤屋があり江戸城無血開城秘話と15代将軍のピストルを伝えています。



薩埵峠からの富士山



15代将軍のピストル 望嶽亭・藤屋 (由比宿)



旅籠いずみ屋・お休み処

江戸時代に東海道を行く旅人が宿泊をした場所です。建物は天保年間(1830年～1844年)に建てられ、安政の大地震でも倒壊しませんでした。

「蒲原夜之雪記念碑」



歌川広重「東海道五十三次」の中でも屈指の名作と言われる「蒲原夜之雪」が、昭和35年国際文通週間記念切手として世界に紹介されたことを記念に建てられた石碑。

「日本遺産への登録」

蒲原宿～藤枝宿は「旅ブームを起こした弥次さん喜多さん、駿州の旅」として日本遺産に登録されました。岩淵も由比も蒲原宿からわずか1里(約4km)で平坦な東海道であることから一体の散策コースとなっています。

蒲原、由比は駿河湾名物・桜海老と鱈粉の本場であり、富士の景観と江戸の趣と併せて発信に動き始めたところです。



「旧五十嵐歯科医院」

東海道蒲原宿の街道沿いにたたずむ旧五十嵐邸は、大正期以前に町家建築として建てられました。大正3年(1914)に、当時の当主故五十嵐準氏が歯科医院を開業するにあたり、町家を洋風に改築。その後昭和15年ごろまでに、西側・東側部分をそれぞれ増築し、現在の形になりました。平成12年には、旧来の町家の特徴を残しながら外観が洋風、というユニークな造形が評価され、国の有形登録文化財となりました。



内部の様子



田子の浦ゆうち出でてみれば真白にぞ富士の高嶺に雪はふりける
(山部赤人)